

---

# 極限のススめ

imaiwa

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

極限のススメ

### 【Nコード】

N3194E

### 【作者名】

imaiwa

### 【あらすじ】

極限の状態において人間の生を感じる筆者の思いを綴っていきます。完結編です。

人間は物事の極限の状態に生を感じる人間ではなかるうか  
それが正しいかどうか俺には分からない。

しかし少なくとも俺自身は極限という状態において自己の生をかん  
じる

平たく言えば生きていることを感じるんだ。

極限とはなんだろう。ネットで検索してみると、「あるものに限り  
なく近づくさま。物事の果て」と書かれている。

私的に解釈すると転換点、ある物が違う物に変わる境というべきも  
の、状態という事か

小難しく語るのは性に合わないのでその意味はこの辺にしておこう  
と思う。

遊園地には色々なアトラクションや人を楽しませる機械が沢山ある。  
その中でも絶叫マシンと言われるものに楽しみを見出す人たちがい  
る。

あれに楽しみを求めて乗る人たちも、極限を楽しむ人たち、極限の  
状態で生を感じてる人たちと言えると思う。

自らを危険に晒して生と死のギリギリの転換点というには、かな  
り無理はあるし

安全なものではあるが、その状態を擬似体験できるものであると言  
えよう。

ただ遊園地の絶叫マシンで死ぬことは100%無いと言う事も付け  
加えておく。

人生にはそういう極限の状態がしばしば訪れる

例えば小学校から中学、中学から高校になるまでのほんの短い期間  
学生から社会人もあるだろう。

その区切り区切りで人々は違う環境に変わるギリギリの刹那の瞬間に  
これから変わるであろう未知のものへの期待感、もしくは不安  
絶望、その先にある者がなんであるかは別にして  
生を感じることに、生きているということを実感できる。

私はその極限の時間に身をゆだねることで、心の底からなにか沸き  
立つような

ブルツとくる快感を覚える。

そしてそれがその場に留まることに繋がることを良しとしているこ  
とが多々ある。

極限の壁を超える前の状態と超えた先の状態によって、極限の時間  
で感じるものは変わってくるだろう。今から述べるにあたって前者  
を極限前、後者を極限後と簡略化する。

極限の時間は筆者が数時間考えてみたかんじだと、かなりのケース  
が考えられる。

まず、極限前から極限後への移動が確約されているものと確約され  
ていないもの

ここで二つにまず分かれる。

例を出そう。エスカレーター式の小中高一貫教育での中学から高校  
への進学と

そうでない普通の中学から高校への進学がいい例じゃないだろうか。  
前者は極限前の中学と極限後の高校への移動が確約されているが  
後者は自己の能力や努力によってはその移動先を変えることもある  
かと思う

次にこの二つの極限の期間での心理状況を考えてみよう。

移動可能な方の極限の期間はどういった心境だろう

筆者が独断でその状態にあると仮定してその状況の心理を代弁するとすると

非常に簡素なものになる気がする。移動の確約がもう決定事項な状態であって

極限の期間であじわえる心理はあまり強くないのじやなかるうか  
極限の期間の心理は大体すべて人間が考えられる期待不安絶望焦り  
など、ほぼ全ての極限の期間の心理と共通するものだが、区分するとすれば、その強弱にあると思う。

移動が確約されていないものは、確約するためのエネルギー分極限の期間ではたらく心理にあたる影響が確約されているものよりは大きい気がする。

他にこの区分に当てはまる事象を考えてみよう。

コネをつかつての企業への就職とそうでないもの、お金を持つてるものとそうでないものの

行動選択での差異。他にもあるだろうが、筆者の貧困な思惑ではこれくらいしか思い当たらないので例はこのへんにする。

簡単に言えば移動を可能とする切符みたいなものがある者と無い者ということになるであろう。

筆者がこれから主に語る極限の期間は移動の確約がされていないものを語ろうと思う。

さて、今まで語った小難しい論理や言葉は正直いいますと書いているうちに私は

苦痛を感じ始めてます。なので、これからはもう少し砕けた文章に変えていこうと思う。

私が極限の期間でなんとも言えない心理状態になる、この瞬間がある意味好きであるということを仄めかしたと思う。そういった状態は何度も経験してきたけど、私が今味わっている現在の私の状態がまさしくそうであると言えるが、今回は今の私の状態に触れるつ

もりはない。

過去に味わった極限の状態での私の経験を話そうかと思う。

昔私は大学を必死の思いで出た経験を持つ。本当に中退するしかないかと思われるところまで

追い詰められた。ここでの極限理論を語るとすれば極限前が現役の学生、極限後が大学を無事卒業ということになる。正直に言うところの例えを極限理論で使うとかなり浅薄であほらしいと思われれることを覚悟しなければいけないと思っている。

ただ私はこの極限の期間において強烈な快感ともいえる心境を味わったのも事実である。

大学を卒業するというけれど、それにはきっちり必要な単位というものの決められていて

私は卒業前だというのに単位をとれていなかった。卒業するためには必要な単位の科目の

全テストに合格するしか卒業する手段はなかった。もし卒業できなかったければ

親にお金はもう出さないと言われていた。私は追い詰められたのである。

大学中退なんてことになったら就職できないばかりか、一生悔いが残るだろう。

頭の中はそれこそ毎日不安に包まれ、悶々とした日々を送っていた。落ちたらコックにでもなろう、そういう思いすら頭に浮かぶ。しかし外からこの状態を聞かされた普通の人は

神経おかしくなるだろうと思うかもしれないけれど、私はなぜかこの状態で苦悩や、焦りを感じつつも、なぜか言い知れぬ、それこそ地から沸き立つような不安感にぞくぞくするものを

感じていた。このギリギリの状態、極限の期間でなんとも言えない恐怖感の中で快感を覚えていた。そう生を感じていたのである。そしてその快感というには不自然な感情の高まりが

臨界点に達した時私が知ってる己というものとは違う別の生き物に

変貌をとげたのである。

変貌・・と言うと大袈裟だが、人が変わったように、ただ卒業するためだけに必要な事を

思い浮かぶ限りの事を実行する。、例えば普段恥ずかしくて隣の人に声をかけることも出来ない私が、ノートを貸してほしいと恥ずかしげもなく、初めて会った人に声をかけるとか、恥ずかしさがとんでしまつて、ずんずんやれる状態になつていった。

簡単にいうと、極限の状態の感情が頂点に達すると、考えることをやめ必要だと思つ行動がなんでもできてしまう。

その内容が良い悪いは別にして、普段自分ではなしえないと決め付けてる事ができてしまう。

いややらざるを得ないとこまで自己をおいつめることによつて普段から考えられないような

力が出せる。これはよく例えに使われる火事場のくそ力と似たようなものかもしれない。

それは極限の期間の感情の高まりが好きになら私にとっては、高まりの後の吹っ切れたような

状態はどうでもいいことになるが、高まりが頂点に達するとそういう行動に出る、出やすくなるということだけ語りたかっただけである。ただ、これを読んでただ背中に火がついただけと

言われればそれまでのことだけど、それを私的な考えに基づいて話すところなると言うだけことである。

世間一般の人々はこういう状態に陥る前に計画を立て余裕をもつて動けるプランを立てて

リスクを回避し、あたかも橋渡るような感覚で極限の期間の心理の高まりというものが比較的平穏なまま次へのステップに移っていくが、そういう生き方も非常に順調に物事が

進み良い事だと思うが、私的に何か物足りなさみたいなものも感じるのである。

ただ、私と同じような高まりをその期間に全ての人が味わえると言えるかどうかは

未知数であるけれども、無理にそういう状態を作って確かめる必要はないが

自然とそういう状態に陥ってる時に私の言っている事を思い出してみても、  
みて各々がどういった感想に至るか筆者の興味の抱くところではある。

終

(後書き)

長々とつまらんものを書いてしまった・・・

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3194e/>

---

極限のススメ

2010年10月28日08時31分発行